

2026年度競技関係申し合わせ事項

初版 2026年5月1日

岡山県小連競技委員会

※この競技関係申し合わせ事項は、岡山県小学生バレーボール連盟（以下、県小連）が主管または主催する大会のみ適用する。

全国大会や中国大会など他の大会へ参加する場合は、その主催者の大会要項等に従うこと。

※末尾の「日小連2026年度競技取り扱いについて」も併せて確認すること。

1. 全般

(1) 県小連からの情報収集について

① チーム責任者や指導者は、県小連ホームページ（県小連HP）やチーム宛メール等を確認し情報収集に努めること。

② 収集した情報は速やかにチーム関係者全員（指導者、保護者）と共有すること。

2. 会場準備について

(1) 会場準備は「別紙 会場準備について」に従って行うこととする。

3. 大会参加について

(1) 大会関連資料の共有と遵守について

① 「競技関係申し合わせ事項」、代表者会議の資料や伝達事項、大会当日の監督・保護者代表者会議の伝達事項および大会役員からの状況に応じて発せられる伝達事項は必ずチーム関係者全員で共有し遵守すること。

(2) 大会参加登録のベンチスタッフおよび選手について

① ベンチスタッフは4名（監督、コーチ2名、マネージャー）まで、選手は14名までとする。

② 監督・コーチは成人であることとし、マネージャーはMRS登録された選手も可とする。

なお、監督不在時はキャプテンが主審に申告することでコーチが代行できる。

③ 選手は健康な状態で参加すること。（健康診断書等の提出は不要）

④ ギプス着用や松葉づえを利用している選手はベンチ入りできない。

なお、指の固定具の場合はベンチ入りを許可するがコートには入れない。

(3) 県外在住選手の扱いについて

① 県小連HP掲載の「他の都道府県在住選手に関する新年度移籍登録選手の確認方法について」に準ずる。

(4) 点示用チームプレートについて

① チーム側で用意すること。

② A4サイズで白地に黒文字とし、よく見えるように大きな文字を使用すること。

③ チームプレートはラミネート加工やクリアファイルに入れ破損に備えること。

④ チームプレートは試合前に記録員へ提出し終了後に回収すること。

(5) メンバー表、スターティングラインアップシートについて

① チーム側で用意すること。

② 混合チームはメンバー表の男子選手にマーカー（色は指定しない）を行うこと。

③ メンバー表は、予選日と決勝日にそれぞれ受付で提出すること。

(6) 大会当日のエントリー変更について

① 選手の背番号変更のみ認める。「エントリー変更届」を受付で提出すること。

4. 大会会場での注意事項について

(1) ドリンクケース等入れ物の扱い

- ①入れ物を持ち運び中に劣化等で破損しないよう事前に確認しておくこと
- ②車輪付き入れ物は車輪についた泥などをきれいにしてから持ち込むこと。
また、フロア内では持ち運ぶこと。

(2) 大会会場での練習について

- ①カベ打ちや観客席に向かってボールを打つてのアタック練習はしないこと。
- ②全チームの練習の場合は、コートを占有しての練習をしないこと。
- ③別の練習場所用意されている場合は、必ず指導者が付き添い大会役員からの注意事項を守って使用すること

5. 試合について

(1) 競技フロアへの入場について

- ①緊急時を除き、役員および参加登録しているベンチスタッフ・選手のみとする。

(2) 選手のユニフォーム、ベンチスタッフのウェアについて

- ①県小連HPの「県小連ユニフォーム規定」を遵守すること。
- ②選手のワイピング用タオルはコート内で最低1名が着用すること。

(3) 控え選手および交代選手の待機場所について

- ①控え選手は空いているイスに座るかウォームアップエリアで待機すること。
- ②交代選手は交代に備えイスに座って待機するか一時的（2～3ラリー）であれば監督席横（ネット側）に座って待機してもよい。

(4) ベンチのイスについて

- ①監督席は移動させないこと。

※監督席はアタックラインから1mエンドライン側に空けて設置している。

このスペースはタイムやセット間に選手が監督付近に集合した時サブスティテューションゾーンに入らないようにする配慮と交代選手の待機場所として使用するためである。

- ②イスが4脚の場合はイスとイスの間をボール1個分ほど空けてもよい。

イスが9脚の場合は終端がエンドラインから近くなるので間を空けないこと。

(5) ベンチへの持ち込み物について

- ①ドリンクケース、救急箱、ボール、ボールカゴ、防寒具入れなど試合に関係するものに限る。なお、入れ物は個人別でもチームでまとめてもよい。

- ②うちわ類は持ち込み可とするがタイムアウト時やセット間のみ使用できる。

(6) 持ち込み物の保管場所について

- ①ドリンクケースや救急箱はバッグなど柔らかい入れ物であればイスの下に置いてもよいが、イスの間や横に置くことは不可とする。

- ②イスの下に置けない場合はウォームアップエリアか競技エリア外に置くこと。

(7) セーフティータイムアウト（STO）について

※末尾の「日小連2026年度競技取り扱いについて」を要約し再掲。

- ①STOは選手の健康と安全のため適用されるものであり、選手の給水や健康観察を最優先させること。

- ②選手はベンチ横からウォームアップエリアの間に30秒間とどまること。

- ③STO中のウォームアップは不可とする。

- ④ベンチスタッフの声掛けは健康観察目的とし試合に対する作戦・指示等を伝達しないこと。

- ⑤STOは第1・第2セットは11点目、第3セットは8点目に適用する。

デュースが続く場合、第1・第2セットは31点目に適用し、以降は10点毎に適用する。第3セットは21点目に適用し、以降は7点毎に適用する。

- ⑥暑い時期の大会で選手の健康と安全に影響があると大会役員が判断した場合は第1・第2セットは7点目と14点目、第3セットは8点目に適用する。

デュースが続く場合、第1・第2セットは25点目に適用し、以降は7点毎に適用する。第3セットは21点目に適用し、以降は7点毎に適用する。

- ⑦適用タイミングを逃した場合は気付いた時点で状況に応じ適用すること。

(8) 混合部門の試合について

- ① 試合中のコート内が常に混合となるように選手交代に十分注意すること。
- ② 混合状態でなくなった場合は、不法な選手交代として取り扱う。
- ③ 混合状態でなかったことがセット終了後に判明してもそのセットは成立する。また、試合終了後に判明してもその試合は成立する。

6. 試合時のマナーについて

(1) ベンチスタッフのマナーについて

- ① タオルを首にかける、ゲーム中にうちわであおぐ等のないよう気をつけること。
- ② 選手への暴言や審判への抗議・暴言は固く禁止する。

(2) 応援マナーについて

- ① 自チーム、相手チームに限らず選手が委縮するような大きな声や音を出さないよう配慮すること。
- ② 審判（線審）へ判定に対する批判・暴言をしないこと。
- ③ 大きな音の出る鳴り物（太鼓、ラッパ等）は禁止する。なお、メガホンの使用は可とするがビッグメガホンや先割れしたメガホンの使用は禁止する。また、鳴り物等で手すりなど施設の物を叩かないこと。
- ④ ペットボトルを利用した鳴り物は破損して中身が飛び散ることがあるので禁止する。
- ⑤ 応援の声や音が大きくホイッスルが聞こえにくいなど試合の進行に影響があると審判が判断した場合は審判から監督に声や音を抑えるように指示することがある。その際、監督は直ちに応援団に対して指示内容を伝え対応すること。
- ⑥ 応援場所はギャラリー最前列とする。人数が多く2列目など広く使用したい場合はその場所の待機チームに配慮を行い了承を得ること。
※自チームの待機場所に一時的に移動してもらうなど。
- ⑦ 応援場所はセット毎に移動してもよい
- ⑧ 応援マナーが守られていないと判断した場合は審判や役員から該当チームの監督に対して注意を行う。監督は直ちに応援団に注意内容を伝え対応すること。

7. 試合球について

試合球は5年生大会～ECCジュニアカップまでを1サイクルとしてミカサ、モルテンを交互に使用する。

詳細は以下の表による。

大会名	偶数年度		奇数年度	
	男子／混合	女子	男子／混合	女子
全日本大会岡山県大会	ミカサ	モルテン	モルテン	ミカサ
ECCジュニアカップ	ミカサ	モルテン	モルテン	ミカサ
ブロック別五年生大会	モルテン	ミカサ	ミカサ	モルテン
OHK杯新人大会	モルテン	ミカサ	ミカサ	モルテン

2026年度競技関係申し合わせ事項

初版 2026年5月1日

岡山県小連競技委員会

※この競技関係申し合わせ事項は、岡山県小学生バレーボール連盟（以下、県小連）が主管または主催する大会のみ適用する。

全国大会や中国大会など他の大会へ参加する場合は、その主催者の大会要項等に従うこと。

※末尾の「日小連2026年度競技取り扱いについて」も併せて確認すること。

1. 全般

(1) 県小連からの情報収集について

① チーム責任者や指導者は、県小連ホームページ（県小連HP）やチーム宛メール等を確認し情報収集に努めること。

② 収集した情報は速やかにチーム関係者全員（指導者、保護者）と共有すること。

2. 会場準備について

(1) 会場準備は「別紙 会場準備について」に従って行うこととする。

3. 大会参加について

(1) 大会関連資料の共有と遵守について

① 「競技関係申し合わせ事項」、代表者会議の資料や伝達事項、大会当日の監督・保護者代表者会議の伝達事項および大会役員からの状況に応じて発せられる伝達事項は必ずチーム関係者全員で共有し遵守すること。

(2) 大会参加登録のベンチスタッフおよび選手について

① ベンチスタッフは4名（監督、コーチ2名、マネージャー）まで、選手は14名までとする。

② 監督・コーチは成人であることとし、マネージャーはMRS登録された選手も可とする。

なお、監督不在時はキャプテンが主審に申告することでコーチが代行できる。

③ 選手は健康な状態で参加すること。（健康診断書等の提出は不要）

④ ギプス着用や松葉づえを利用している選手はベンチ入りできない。

なお、指の固定具の場合はベンチ入りを許可するがコートには入れない。

(3) 県外在住選手の扱いについて

① 県小連HP掲載の「他の都道府県在住選手に関する新年度移籍登録選手の確認方法について」に準ずる。

(4) 点示用チームプレートについて

① チーム側で用意すること。

② A4サイズで白地に黒文字とし、よく見えるように大きな文字を使用すること。

③ チームプレートはラミネート加工やクリアファイルに入れ破損に備えること。

④ チームプレートは試合前に記録員へ提出し終了後に回収すること。

(5) メンバー表、スターティングラインアップシートについて

① チーム側で用意すること。

② 混合チームはメンバー表の男子選手にマーカー（色は指定しない）を行うこと。

③ メンバー表は、予選日と決勝日にそれぞれ受付で提出すること。

(6) 大会当日のエントリー変更について

① 選手の背番号変更のみ認める。「エントリー変更届」を受付で提出すること。

4. 大会会場での注意事項について

(1) ドリンクケース等入れ物の扱い

- ①入れ物を持ち運び中に劣化等で破損しないよう事前に確認しておくこと
- ②車輪付き入れ物は車輪についた泥などをきれいにしてから持ち込むこと。
また、フロア内では持ち運ぶこと。

(2) 大会会場での練習について

- ①カベ打ちや観客席に向かってボールを打つてのアタック練習はしないこと。
- ②全チームの練習の場合は、コートを占有しての練習をしないこと。
- ③別の練習場所用意されている場合は、必ず指導者が付き添い大会役員からの注意事項を守って使用すること

5. 試合について

(1) 競技フロアへの入場について

- ①緊急時を除き、役員および参加登録しているベンチスタッフ・選手のみとする。

(2) 選手のユニフォーム、ベンチスタッフのウェアについて

- ①県小連HPの「県小連ユニフォーム規定」を遵守すること。
- ②選手のワイピング用タオルはコート内で最低1名が着用すること。

(3) 控え選手および交代選手の待機場所について

- ①控え選手は空いているイスに座るかウォームアップエリアで待機すること。
- ②交代選手は交代に備えイスに座って待機するか一時的（2～3ラリー）であれば監督席横（ネット側）に座って待機してもよい。

(4) ベンチのイスについて

- ①監督席は移動させないこと。

※監督席はアタックラインから1mエンドライン側に空けて設置している。

このスペースはタイムやセット間に選手が監督付近に集合した時サブスティテューションゾーンに入らないようにする配慮と交代選手の待機場所として使用するためである。

- ②イスが4脚の場合はイスとイスの間をボール1個分ほど空けてもよい。

イスが9脚の場合は終端がエンドラインから近くなるので間を空けないこと。

(5) ベンチへの持ち込み物について

- ①ドリンクケース、救急箱、ボール、ボールカゴ、防寒具入れなど試合に関係するものに限る。なお、入れ物は個人別でもチームでまとめてもよい。

- ②うちわ類は持ち込み可とするがタイムアウト時やセット間のみ使用できる。

(6) 持ち込み物の保管場所について

- ①ドリンクケースや救急箱はバッグなど柔らかい入れ物であればイスの下に置いてもよいが、イスの間や横に置くことは不可とする。

- ②イスの下に置けない場合はウォームアップエリアか競技エリア外に置くこと。

(7) セーフティータイムアウト（STO）について

※末尾の「日小連2026年度競技取り扱いについて」を要約し再掲。

- ①STOは選手の健康と安全のため適用されるものであり、選手の給水や健康観察を最優先させること。

- ②選手はベンチ横からウォームアップエリアの間に30秒間とどまること。

- ③STO中のウォームアップは不可とする。

- ④ベンチスタッフの声掛けは健康観察目的とし試合に対する作戦・指示等を伝達しないこと。

- ⑤STOは第1・第2セットは11点目、第3セットは8点目に適用する。

デュースが続く場合、第1・第2セットは31点目に適用し、以降は10点毎に適用する。第3セットは21点目に適用し、以降は7点毎に適用する。

- ⑥暑い時期の大会で選手の健康と安全に影響があると大会役員が判断した場合は第1・第2セットは7点目と14点目、第3セットは8点目に適用する。

デュースが続く場合、第1・第2セットは25点目に適用し、以降は7点毎に適用する。第3セットは21点目に適用し、以降は7点毎に適用する。

- ⑦適用タイミングを逃した場合は気付いた時点で状況に応じ適用すること。

(8) 混合部門の試合について

- ① 試合中のコート内が常に混合となるように選手交代に十分注意すること。
- ② 混合状態でなくなった場合は、不法な選手交代として取り扱う。
- ③ 混合状態でなかったことがセット終了後に判明してもそのセットは成立する。また、試合終了後に判明してもその試合は成立する。

6. 試合時のマナーについて

(1) ベンチスタッフのマナーについて

- ① タオルを首にかける、ゲーム中にうちわであおぐ等のないよう気をつけること。
- ② 選手への暴言や審判への抗議・暴言は固く禁止する。

(2) 応援マナーについて

- ① 自チーム、相手チームに限らず選手が委縮するような大きな声や音を出さないよう配慮すること。
- ② 審判（線審）へ判定に対する批判・暴言をしないこと。
- ③ 大きな音の出る鳴り物（太鼓、ラッパ等）は禁止する。なお、メガホンの使用は可とするがビッグメガホンや先割れしたメガホンの使用は禁止する。また、鳴り物等で手すりなど施設の物を叩かないこと。
- ④ ペットボトルを利用した鳴り物は破損して中身が飛び散ることがあるので禁止する。
- ⑤ 応援の声や音が大きくホイッスルが聞こえにくいなど試合の進行に影響があると審判が判断した場合は審判から監督に声や音を抑えるように指示することがある。その際、監督は直ちに応援団に対して指示内容を伝え対応すること。
- ⑥ 応援場所はギャラリー最前列とする。人数が多く2列目など広く使用したい場合はその場所の待機チームに配慮を行い了承を得ること。
※自チームの待機場所に一時的に移動してもらうなど。
- ⑦ 応援場所はセット毎に移動してもよい
- ⑧ 応援マナーが守られていないと判断した場合は審判や役員から該当チームの監督に対して注意を行う。監督は直ちに応援団に注意内容を伝え対応すること。

7. 試合球について

試合球は5年生大会～ECCジュニアカップまでを1サイクルとしてミカサ、モルテンを交互に使用する。

詳細は以下の表による。

大会名	偶数年度		奇数年度	
	男子／混合	女子	男子／混合	女子
全日本大会岡山県大会	ミカサ	モルテン	モルテン	ミカサ
ECCジュニアカップ	ミカサ	モルテン	モルテン	ミカサ
ブロック別五年生大会	モルテン	ミカサ	ミカサ	モルテン
OHK杯新人大会	モルテン	ミカサ	ミカサ	モルテン

2026年4月6日

都道府県連盟理事長各位

一般社団法人日本小学生バレーボール連盟
代表理事 工藤 憲
専務理事 大内 賢司
競技推進本部長 菅野 裕

一般社団法人日本小学生バレーボール連盟
2026年度 競技取り扱いについて

日頃より、一般社団法人日本小学生バレーボール連盟の活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、2026年度の競技取り扱いについて、以下の通りお伝えいたします。

つきましては、各都道府県連盟におかれましては、役員及びチーム関係者への周知のほどよろしくお願いいたします。

1. 選手の健康と安全のためのタイムアウトについて

2026年度より、小学生ルールよりテクニカルタイムアウト（TTO）が削除となり、競技としての取り扱いへ移行されました。

名称をセーフティータイムアウト（STO）とし、気候や季節、施設の環境等を考慮しながら、大会毎に大会実行委員会にて設定するものとします。

※セーフティータイムアウトは選手の健康と安全のために適用されるものであることを再確認し、選手の給水や健康観察を最優先させること。

- ・選手はベンチ横からウォームアップエリアの間の位置に30秒間とどまること。
- ・セーフティータイムアウト中は、ウォームアップはできない。
- ・ベンチスタッフの声かけは、健康観察のためのものである。

○セイ Vitality カップ JVA 第46回全日本バレーボール小学生大会全国大会においては、各セット1回のセーフティータイムアウトを適用します。

デュースが続く場合の取り扱い

第1、第2セットでは、両チームが31点に達したときに適用し、その後は10点ずつ積み重ねた段階で適用する。3セット目は両チームが21点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。

○都道府県大会等において、会場に空調設備がなく、選手の安全が確保できないと大会実行委員が判断した場合には以下のように適用してもよい。

セーフティータイムアウトを2回適用する場合の取り扱い

第1、第2セットでは、リードしているチームが7点と14点に達した時、第3セットはリードしているチームが8点に達した時、チェンジコート後に適用する。デュースが続く場合、1～2セットは両チームが25点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。また、3セット目は両チームが21点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。

2. ユニフォームについて

①ユニフォーム規程

JVA ユニフォーム規程 2026 一部改定について

※以下の改定内容については、小学生においても同様の取り扱いとする。

- ・ゲームシャツ

長袖、半袖、ノースリーブが**混在してもよい→してはならない**

- ・チームネーム 胸部→「前部」に変更 **番号の下でも良いということ**
- ・アンダーウェアは着用しても良い。(チームメンバー全員が着用する必要はない。)
アンダーウェアはユニフォームの袖や裾、首等からはみ出しても良い。 アンダーウェアの色はユニフォームのメインカラーと同色が望ましいが、サブカラー以外の色でも認められる。
- ・ベンチスタッフの服装
タンクトップのような形状のシャツ類、短パン、ハーフパンツ は許可されない。
襟の有無は問わない(Tシャツも可)

②ウェア等公認制度について

2026年版が HP「競技関係情報・各種様式」に掲載されている。

③混合のユニフォームについて

「男女の違いが、相手チーム、観客、レフェリーから見て明瞭に区別できるように、カラーやデザイン面に注意する必要がある。」とします。

基本的に男女で違うユニフォームを着用することが多いですが、同じデザインになる場合には、「JVA ユニフォーム規程詳細」にあるリベロプレーヤのユニフォーム①～③を参照のこと。

※識別バンドやソックスの色での区別だけでは不可となります。

○スミセイ Vitality カップ JVA 第46回全日本バレーボール小学生大会全国大会については

上記の内容を含め、ユニフォーム規程・JVA ウェア等公認制度及び小学生連盟におけるユニフォーム取り扱いに則って大会運営をしますので、**都道府県大会から競技委員長によりユニフォーム確認をしてから、チームを全国大会に送り出してあげてください。**

ただし、昨年度からベンチ入り選手が14名になり、「13・14番については、ユニフォームが揃わない場合にはTシャツにゼッケン等で番号を入れる、違うユニフォームにビブスを着て番号を変えるなどでベンチ入りを認める。」としていました。これについては**今年度まで同様とします。**

同大会の都道府県予選大会においても、可能な限り全国大会同様の取り扱いに準ずるのが望ましいですが、「参加を認めない」「着替えを強要する」などの対応ではなく、「今後のために指導をしていく」という観点からの対応をお願いします。

なお、JVA 主催以外の大会においては、それぞれの大会の主催者にて取り扱いを決めていただくようになります。

3. ベンチへの持ち込み物について

ペットボトル→体育館の利用規定に準じて大会ごとに決めてください。

4. 試合中の応援団グッズの使用及び応援マナーへの対応について（再掲）

平成19年に、監督から選手への指示の声が聞こえなかったり、選手が集中できなかったりするという理由から、太鼓・ラッパなどの大音量を発生する「鳴り物」は複数コートで試合をしているときには使用しないとの通知がされ、現在も適用されています。メガホンやバルーンは鳴り物にはあてはまらず、使用については規制してはおりません。

応援によって選手を励まし、大会を盛り上げることは素晴らしいことであるが、反面応援が選手にとってマイナスとなるケースも見られるので、応援のマナーとして特に以下の点について指導していくこと。

- ・ 審判のホイッスルが聞こえなくなるようなプレー中の応援はしないこと。
- ・ 相手チーム自チームに限らず、選手が萎縮してしまうような大きい声・音はださないこと。